

式 辞

春。昨日からの雨が、あちらこちらの桜をひときわ鮮やかに浮かび上がらせてくれました。そんな中、本校の入学式を挙行いたしましたところ、蟹江警察署弥富幹部交番長大石邦夫（おおいし くにお）様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を賜わり、新入生の前途を祝福していただくことができました。高いところからではありませんが、心よりお礼申し上げます。

「ありがとうございます。」

新入生の皆さん、

「ご入学、おめでとうございます」

弥富中学校は皆さんを心より歓迎します。思えば、ちょうど一か月前に皆さんとここで会いました。教室での授業や部活動を見学している時のキラキラとした目の輝きを私はすっかり覚えています。そして、今も、その輝きは失われることなく、さらに「よし、中学生だ！」と決意のような強さも備えたように感じます。どうか、その、輝きを忘れないでください。

しかし、一方で、心には不安もたくさんあるのではないでしょうか。「友達ができるかな」「勉強についていけるかな」数えればきりがなほどの不安が、次から次へとわいてきていませんか。私も、かつて栄南小学校からこの弥富中学校に入学した時は皆さんと同じ気持ちでした。違う小学校から来る子たちとの出会いは、楽しみである一方でとても不安でした。でも、その不安は

しばらくして消えました。消してくれたのは、クラスの友達であり、担任の先生であり、家族でした。一人で抱え込むのではなく、困った時、苦しい時、つらい時に、ちよつと肩の力を抜いて周りを見てください。きつと皆さんの周りで優しく見守ってくれる人がいるはずですから。そして安心して、一歩ずつ前へ歩んでいってほしいと思います

保護者の皆様、

「お子様のご入学、誠におめでとうございます」

心からお祝い申し上げます。本日、皆さま方の大切なお子様を確かにお預かりいたしました。今日から三年間、その責任を果たすために、教職員一同、努力を惜しまない覚悟でいます。

中学校生活は九年間の義務教育の最終段

階です。卒業後はそれぞれが決めた道へと自分の力で歩まなくてはなりません。私たちは、さまざまな教育活動を通してその力をつけさせるよう取り組んでまいります。そして、一方で、社会の一員として、弥富市の次の時代を担う一人の大人として、集団としての規律を守り、時には我慢をしながらはならない時もあることも指導させていただきます。保護者の皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、始業式も兼ねていきますので、在校生のみなさんにもお話します。それぞれ、「進級、おめでとうございます」修了式からわずか二週間しかたっていない皆さんが、とても頼もしく見えます。かわいい一九三名の後輩たちをリードする先輩としてよろしく願います。

さて、新しい学年がスタートするにあたり、こんな数字を紹介します。「一〇一五」。これは何だと思いませんか。単位は「時間」です。中学校の一週間の授業は、月曜日が五時間授業、その他の曜日が六時間授業です。合算二十九時間です。そして、夏休みなどをはぶくと三十五週間ありますから、これらをかけ算した時間が「一〇一五時間」なのです。つまり、みなさんは一年間に一〇一五時間の授業を受けます。もう少し細かく見ていきましょう。一時間といっても、正確には中学校の授業は五十分授業ですから、一〇一五時間を分に直すと五〇七五〇分となります。これを一年三六五日で割ってみると、一三九・〇四分となります。つまり一年間に学校の授業で勉強する時間を、土曜日や日曜日、夏休みや冬休みなどのお休みの日も勉強するとすると、約一三九分となります。つまり、一年間の

学校での学習内容は、毎日、二時間一九分の勉強するのと同じだということです。数字だけで考えるとすごいことですよ。

では、皆さんは、日々の生活の中で、この二時間一九分という時間をどう使っていますか。テレビの「二時間スペシャル！」を観ていたら、もうそれで終わりですよ。友達とLINEやTwitterでやり取りをしていたら、あっという間に二時間などたっつてしまいますね。マイナス面だけではありません。毎日、家で二時間机に向かったら、他の子の倍、二年分の勉強をしたことになります。家族とお菓子をつまみながらおしゃべりをする二時間があったら、どんなに素敵でしょう。

人に与えられた時間は平等に二十四時間です。それをどう使うかで、皆さんの一年後は大きく変わってくるように思います。今年一年がすばらしい年になるよう期待し、

式辞とします。

平成二十九年四月七日

弥富市立弥富中学校長

高山典彦